

—印刷業黎明期の先覚者— 郷土の偉人 嶋連太郎



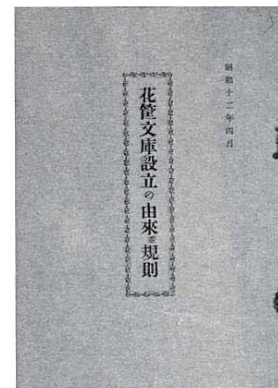
嶋連太郎は、若年にして上京、印刷会社三秀舎を創立し印刷業界のために貢献し、自社においても出版を試み採算不能な有益かつ貴重な図書を出版してきました。その中には郷土（福井県）に関するものも数多く含まれています。また愛郷心も強く「南越花筐会」を組織し全国の粟田部出身者との連携、交友を図っていました。

昭和11年には花筐文庫（現今立図書館の前身）を創設するなど社会、文化向上のため尽力し公共事業等にも貢献してきました。

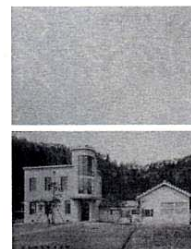
本展では連太郎の足跡をもとに関係資料と当館所蔵（花筐文庫）の貴重な資料を初めて公開、展示するものです。

略年譜

- 1870年（明治3）
3月8日、今立郡粟田部村（現越前市）、嶋伴平の長男として生まれる
- 1876年（明治9）
嚶鳴小学校（現花筐小学校）に入学
- 1884年（明治17）
大政治家の志を立てて上京する
吉田健三が経営していた吉田醤油製造所に住み込みながら夜学に通う
- 1886年（明治19）
改進黨・佐久間貞一が経営する秀英舎に就職する
- 1896年（明治29）
金崎金平、浅利信隣、白土幸力と共に合資会社三光社を開業する
- 1901年（明治34）
4月15日、三秀舎を設立する
- 1905年（明治38）
南越花筐会を創立する
- 1909年（明治42）
同人誌「白樺」の印刷を開始する
- 1912年（大正元）
東京印刷同業組合代議員、評議員に選ばれる
- 1913年（大正2）
南越花筐会会長に就任する
- 1919年（大正8）
父・伴平翁の句碑並びに銅像の除幕式を花筐公園で挙げる
- 1921年（大正10）
三秀舎創業20周年にあたり「世界印刷通史」の刊行を決定する
- 1923年（大正12）
東京印刷同業組合議長に選出される
- 1934年（昭和9）
三秀舎創立30周年記念事業として「越前若狭古文書選」「白山本神皇正統記」「越前及び若狭地方の史蹟」「明治天皇御製・謹製写真石版」を出版する
- 1936年（昭和11）
花筐文庫建設資金1万5000円を寄付する
5月20日、花筐文庫地鎮祭が行われる
11月11日、花筐文庫落成式行われる。本館二階で岡太神社宝物展示される
- 1937年（昭和12）
4月13日、花筐文庫開庫式行われる
- 1938年（昭和13）
日本図書館協議会理事長より感謝状贈呈される
- 1939年（昭和14）
紺綬褒章受賞する
- 1941年（昭和16）
2月7日、体調不良のため入院する
2月11日、午後0時50分、大往生。享年72歳、法名「三秀院汪洋居士」
2月15日、通夜、三秀舎事務所にて、来弔者500名を越す
2月16日、葬儀、会葬者2,000名を越す。山田粟田部町長弔辭
雑司ヶ谷の瑩域に葬られた



←《花筐文庫設立の由来並び規則》



←花筐文庫開庫式記念絵葉書
上・表/下・裏(現・嶋会館)

↓《漱石全集》(三秀舎印刷)



→《白樺》(複製版・三秀舎蔵)



今立歴史民俗資料館（越前市今立図書館に併設）

〒915-0231 越前市定友町21-3-1

☎0778(43)0229 ☎0778(42)3566